

# 『計量経済学』正誤表

最終更新日：2026年4月24日

『計量経済学』第1版第1刷の正誤表です。誤りを発見された場合は著者までご連絡いただければ幸いです。

## 正誤表

ページ	箇所	誤	正
p.56	定理 5.6	$\mathbf{X}$ と $\mathbf{Y}$ は定数ベクトルまたは行列である	$\mathbf{X}$ は定数ベクトルまたは行列であり, $\mathbf{Y}$ は確率変数ベクトルである
p.74	定理 6.1 とその直後	$E(u_i D) = 0$ がすべての $D$ で成り立つ	$E(u_i D_i) = 0$ が成り立つ
p.104	下から 5 行目の式	$E[\epsilon_i^2(X_{1i}^2 + X_{2i}^2 + \dots + X_{ki}^2)]$ $= \sum_{j=1}^k E(\epsilon_i^2 X_{ji}^2)$	$E[\epsilon_i^2(1 + X_{1i}^2 + X_{2i}^2 + \dots + X_{ki}^2)]$ $= E(\epsilon_i^2) + \sum_{j=1}^k E(\epsilon_i^2 X_{ji}^2)$
p.149	(11.1) 式	テストの正答率 $_{it} = \beta_0$ + $\beta_1$ 給食の質 $_{it} + u_{it}$ , $E(u_{it}   給食の質_{it}) = 0$	テストの正答率 = $\beta_0$ + $\beta_1$ 給食の質 + $u$ , $E(u   給食の質) = 0$
p.152	下から 12 行目	この固定効果モデルにおいて... 因果効果を表すと解釈できる。	該当箇所を削除
p.152	下から 1 行目	不偏性、一致性、漸近正規性を持つのである	時間を通して不変な変数に起因する欠落変数バイアスを持たない

ページ	箇所	誤	正
p.153	下から 8 行目	不偏性、一致性、漸近正規性を持つ	時間を通して不変な変数に起因する欠落変数バイアスを持たない
p.174	上から 5 行目	を検定をしたい	を検定したい
p.188	下から 3 行目	不偏性、一致性、漸近正規性を持つ	一致性、漸近正規性を持つ
p.197	上から 8 行目	$\text{Cov}(X_{ji}\epsilon_i)$	$\text{Cov}(X_{ji}, \epsilon_i)$
p.197	上から 9 行目	$\text{Cov}(Z_{ji}\epsilon_i)$	$\text{Cov}(Z_{ji}, \epsilon_i)$
p.212	上から 5 行目	$\mathbf{R}$ は $r \times k$ の	$\mathbf{R}$ は $r \times (k + 1)$ の
p.215	下から 4 行目	したがって、	該当箇所を削除